

兵庫県教育委員会事務局人権教育課主任指導主事 山田 耕治

■実践教科 : 総合的な学習の時間、社会科

■指導時数 : 5時間

■対象学年 : 中学生～高校生

◆教師海外研修を通して感じたこと

ベトナム戦争後、86年からのドイモイ(刷新)政策により、市場経済に基づく近代的な国づくりが急速に進んでおり、日本では失われつつある勢いや活力を感じた。

日本向けの家具などを作る工場で黙々と働く人たちの姿を見た。私たちが日常、何気なく使用している身の回りの製品の中には、こういった無名の人たちの汗と心が染み込んでいる。そういったことへの感謝の気持ちがわいてきた。

また、近年のベトナム発展の陰に、日本からの青年海外協力隊員の地道な努力があり、そのひたむきな姿が、ベトナムの人々の心を動かし、変えていっていることも実感した。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

ベトナムについて、これまで学んできた知識や経験からくる思いこみや表層的な印象で見ている。

◆社会主義の国であり、統制が厳しく、自由が少ないという印象

◆教育観も集団を重んじる印象

外から見るベトナムは、アジアの中でも遠い存在であった

AFTER

直接、ベトナムの人々と話したり、その暮らしぶりや考え方を見聞することにより、実際の姿を確認できた。

◆市場の賑わいや、若者が多く活気を感じた。

◆無秩序と思えるくらい縦横無尽にバイクが走る市街地の様子は、統制が厳しい国という印象を覆した。

◆今回出会った教育者は、一人一人の子どもたちを大切に
する教育観をもっていた。

ベトナムや、出会った子どもの将来を見てみたいと思うようになった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1)実践の目的/背景

近年の日本社会は、急激な経済状況の変化による派遣切りなど、働く状況が変化し、働く者の不安を呼んでいる。また、人身にまつわる傷害・虐待・殺人事件等、忌まわしい事件もあとを絶たない。社会の閉塞感の中で、人心の不満が充満し、ストレスが極度に爆発している感がある。

高度情報化、都市化、グローバル化等が進展し、効率化、利便性はますます増していく反面、情報を相手に生き、生身の人間関係を絶ち、身勝手に自己中心に生きる心の冷え切った姿もある。

子どもたちの心を育む土壌である家庭も、家族同士が触れあう時間も少なくなり、心の安定の場になっていないことなどが、子どもたちの新たな問題を生む要因ともなっている。

今回の研修で訪問したベトナムは、高度経済成長の始まった1950年代の日本の姿に似ている、とよく言われる。そこで出会った人々の姿には、活力があり、夢があり、前向きに生きようとする意欲が感じられた。また、貧しいけれども温かくつながった地域と家庭があり、子どもたちには、自分を育ててくれた親や教師に対する感謝の心があった。

ベトナム戦争があったということぐらいは知っていても、まだまだ知られていないベトナムの現状を伝え、日本との間に、物と物、人と人の深いつながりあることに気づかせたい。また、子ども、女性、障害者、労働者の人権を取り巻く環境という観点から、日本の状況と比較・考察させたり、JICA職員、青年海外協力隊員として異国の地に飛び込み、人々の幸せを願い生きる人々の姿を伝えることを通して、閉塞した社会を打開し「何のために学び、働くのか」「何のために生きるのか」等、自らの生き方や進路についても考えさせる契機としたい。

(2)授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 ベトナムを知る (1)地理的概要 (2)歴史 (3)産業 (4)日本との関係	<ul style="list-style-type: none">○ベトナムのお土産を見せる コーヒー(世界2位)の生産量/植民地時代 真珠(日本の輸入先上位)○地理的概要について 首都ハノイ、ホーチミン、メコン川、紅河○歴史(特に第2次世界大戦後)について ※ベトナムでなぜコーヒーが作られたのか 植民地からの独立/ベトナム戦争/ ドイモイ(刷新)政策後○ベトナムの主な産業、生産量、輸出高、工業生産量の伸び率等について ※写真や資料から気付かせる ※身近なところにベトナム製品があることにも気付かせる	<ul style="list-style-type: none">・ベトナムコーヒー・世界地図・ベトナム地図・統計資料・教材プリント・写真 (ベンタイン市場、バイク、水田・・・)

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>2時限目</p> <p>ベトナムの子どもたち</p> <p>(1) 日本語を学ぶ学生 (2) 日本の学校との共通点と違い (3) 働く子どもたち (4) 障害のある子どもたち</p>	<p>○前時のふりかえり ※ベトナムが日本との結びつきを深めていることを想起させる</p> <p>○ベトナムの学校・子どもたちの様子について</p> <p>1 日本語を学ぶ授業、講座がある 2 日本の学校との共通点、違い ・ホーチミン主席の写真がある ・エレクtoon、ダンスを踊る少女たち ・授業時間、教科 ※提示する写真から気付かせる</p> <p>3 働く子どもたちについて ・ベトナム市場／靴磨きの少年の写真 ・就学率を日本と比較する ※なぜ、働くのか・自分たちと同じ世代の青少年が置かれている現状を知るとともに、その原因を理解させる</p> <p>4 障害のある子どもたちについて ・孤児院、障害児施設の写真 ・ベトナム戦争の影響、施設を出た子どもたちの進路について話す ※施設で働く青年海外協力隊員(女性)のエピソードを紹介し、障害児の受入体制等も変わってきていることに留意</p>	<p>・写真 (ベトナム日本人材協力センター／バグザン省小学校／リ・トゥン・キット中学校／チルドレンズ・パレス／ドンナイ省立障害孤児養育センター)</p> <p>・ベトナムの教科書 ・ワークシート</p>
<p>3時限目</p> <p>ベトナムの母(女性)たち</p> <p>(1) 活躍する女性の姿 (2) 母としての思い (3) 家族</p>	<p>○さまざまなベトナムの女性の姿やエピソードを紹介する。</p> <p>1 活躍する女性の姿 ・市場で働く女性、果物を売る女性、学校の女性校長、工場で働く女性、戦場で銃を構える女性、モーチンハイ村の母娘 等</p> <p>2 母としての思い、家族への思い</p> <p>○難民として渡日し、日本で活躍する子ども多文化共生サポーター(ベトナム語)をゲストティーチャーに招き、ベトナムの女性、母親の思い、家族について語ってもらう。 ※母としての思い、平和への思いを感じ取らせる</p>	<p>・写真 (パワーポイント) ・ワークシート</p>
<p>4時限目</p> <p>労働と人権について考える</p> <p>(1) ベトナムの労働者 (2) 日本との比較 (3) 働く目的</p>	<p>○ベトナム企業で働く人々について ・ベトナムの一般的な労働条件について説明 ・日本国憲法・法律で保障されている権利 ・日本の状況との比較</p> <p>○何のために働いているのか ・ベトナム企業社長の話を紹介</p> <p>○ベトナムで頑張る協力隊員等の姿を紹介 ・第2期ハノイ水環境改善事業専門家(男性) ・村落開発普及員(女性) ・JICA職員(女性)</p>	<p>・写真、ビデオ ・教材プリント ・ワークシート</p>
<p>5時限目</p> <p>まとめ</p> <p>世界に目を向け、自身の生き方について考えさせる</p>	<p>○JICA研修員をゲストに招き、自身の海外での体験や現在の研修について話してもらう</p> <p>○学んだことや感じたことを作文にし、JICAエッセイコンテストに応募する</p>	

2. 実践したこと

- (1) 兵庫県教育委員会主催人権教育研修会(管理職、担当教員対象)における講義の一部で、ベトナムで感じたことを通し、人権教育推進上必要な観点を示す。
 - ア. すべての人を尊重する視点
 - イ. 特に女性や、陰で努力している人に光を当てる視点
- (2) 子ども多文化共生センターでの展示「ベトナムコーナー」
 - ア. ベトナムのおもちゃ
 - イ. ベトナムの教科書
 - ウ. 帰国報告書

3. 成果と課題

兵庫県では、JICA 兵庫、(財)兵庫県国際交流協会、市町並びに NGO/NPO 等関係団体と連携を図りながら、外国人コミュニティの自立支援や多言語による生活相談、日本語学習支援などの充実のための取り組みを推進している。

今後は、学校においても、これらの諸事業などとも連携を図り、積極的に子ども多文化共生に向けた取り組みを進めていく必要がある。また、地域においても、県民一人一人が諸外国の人々と日常のふれあいの中で交流を深め、共に生きるという精神の醸成を図る必要もある。

関係機関・団体、大学、企業、そして地域や家庭などとの連携を深めながら、子ども多文化共生教育の取組を行うことがますます重要であると考えます。

今後も、県教育委員会では、ネットワークを生かしながら、子ども多文化共生に向けた様々な指導者研修会の実施、交流の機会や場の整備に努めていきたい。